

自 己 評 価 書

(平成25年度)

平成26年3月

鳴門教育大学附属幼稚園

目 次

I 学校の現況及び目的	1
II 評価項目ごとの自己評価	2
1. 教育課程・指導	2
2. 保健安全管理	8
3. 組織運営	11
4. 研修	14
5. 教育環境整備	16
6. 教育実習	18
7. センターの役割	22
III 自己評価別添根拠資料一覧	24

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成
3歳児1学級, 4歳児2学級, 5歳児2学級
保育課程 2年保育, 3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(平成25年5月1日)
幼児数134人 教員数9人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。
- ③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。

④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。

⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。

⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

(3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

(4) 平成25年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の4点から教育目標の具現化を図る。

①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。

②「遊誘財」研究ならびに幼小接続の教育課程開発研究を深める。

③危機管理対策をさらに見直し、その強化を図る。

④幼児教育におけるセンター的役割を果たす。

(5) 評価項目

①教育課程・指導

- ・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
- ・幼小の円滑な接続に関する取り組み状況

②保健安全管理

- ・保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況
- ・危機管理対策の見直しと強化

③組織運営

- ・園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

④研修

- ・園内外における研修の実施及び参加状況

⑤教育環境整備

- ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

⑥教育実習

- ・専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

⑦センター的役割

- ・幼児教育関係者への研修支援、教員派遣等の状況
- ・地域住民への貢献

II 評価項目ごとの自己評価

評価項目1 教育課程・指導

(1) 観点ごとの分析

観点1-1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

【観点到係る状況】

幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、本園の教育課程・指導計画である「生活プラン」を作成している。今年度は幼児の科学的思考を促す幼小接続教育課程を作成して、数量、図形、言葉や文字、協同性の観点から教育課程・指導計画を再編成した。また、5歳児Ⅱ期からの小学校への接続期前期に育てたい、数量、図形、言葉や文字、協同性に関する感覚やかかわる力を明示した。

【分析結果と根拠理由】

①研究開発学校の指定を受けて進めてきた成果をまとめ、幼児の科学的思考を促す教育課程・指導計画を作成した。また、5歳児9月から1年生7月までを「接続期」として、幼小の教育内容や方法の接続の方略を示し、「科学的思考を促す幼小接続教育課程の評価要素—鳴門教育大学附属幼稚園方式—」を提案した実績についても文部科学省教科調査官や指導・助言担当者から評価を得ている。

②平成25年度附属幼稚園オープンスクール並びに幼児教育研究会におけるアンケート集計結果、本園の保育実践や教師の指導力について、幼児教育研究会（来園者538名・アンケート回答者114名）や本園オープンスクールの参観者（来園者174名・アンケート回答者102名）に尋ねたアンケート集計結果によると、本園の保育について「とてもよい」との回答が、教育関係者95.6%、保護者99%から寄せられ、教師の姿勢や指導力に関しては、○教育関係者：「子どもへのあたたかい関わり方や、教師の言葉の優しさ・ユーモアをすごいと感じた」「保育者から提案するのではなく、子どもの意見に耳を傾けている姿がよかった」「叱責や、禁止するとかのことばが皆無だった」「あたたかい笑顔と機敏な動きの保育者の姿は見習うべきである」「全教師が関わっていることがすごい」「子どもがもっと追求したいと思うようになる言葉をかけていた」「出すぎない関わり方や言葉のかけ方を見習いたい」「多くを語らずそっと子どもに寄り添う教師の姿が印象的だった」「子どもに考えさせたり、意見を聞きながら支援したりする姿がよい」「教師自身が遊びを楽しんでおり、日々のコミュニケーションがしっかり図れていることがわかった」「教師は絶対子どもの味方でなければいけないということばが印象的だった」「普段通りの落ち着いた様子であった」

また、本園の環境整備について「とてもよい」との回答は、教育関係者94.7%、保護者100%から寄せられた。

資料1-① 平成25年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果（一部抜粋）

平成25年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果	
実施日	平成25年11月2日（土）
対象	オープンスクール参観者 174名（アンケート回答者102名）
内容	1 保育について 3段階評価及び自由記述
	2 環境整備について 3段階評価及び自由記述
	3 その他感想・意見 自由記述

アンケート集計結果

○保育について	
・とてもよい	101名 (99%)
・あまりよくない	0名 (0%)
・どちらでもない	1名 (1%)
・記入なし	0名 (0%)
○環境整備について	
・よく整っている	102名 (100%)
・もっと整えて欲しい	0名 (0%)
・どちらでもない	0名 (0%)
・記入なし	0名 (0%)

保育について自由記述の概要

★子どもが生き生き・のびのび・楽しく

- とにかくみんなが自由楽しく過ごし、笑顔にあふれていた。
- のびのびと好きな活動を思いのままに、遊んでいる。
- 全員が生き生きと目を輝かせて活動している。いい表情をしている。
- 礼儀正しい。

★自主性・主体性・遊びを大切に

- 先生方を信頼しているからこそ、頑張って挑戦している事がよくわかった。
- 自主性を尊重しながらも、力を合わせて取り組む場面も見られ良かった。
- 子どもたちが伸び伸びと、それぞれのしたいことに一生懸命取り組む姿があった。

★集団活動・協調性

- クラスを超えた遊びをするなど、あそびを通して協調性を学んでいる。
- したい遊びを思う存分楽しむ中で、自由ではあるけれども、規則や友達との関係を学ぶなど様々なルールが暗黙のうちに守られている。
- 友達への接し方、優しさなど沢山の経験を積んでいることがわかった。
- 子どもたちが協力して一つのことをやるなど、自宅ではできない活動があることがすばらしい。

別添資料	1-①	平成25年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料	1-②	平成25年度附属幼稚園幼児教育研究会アンケート集計結果
別添資料	1-③	平成25年度幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料	4-①	研究紀要第47集

観点1-2 幼小の円滑な接続に関する取り組み状況

平成23年度より3年間、文部科学省より研究開発学校の指定を受け「幼小接続の教育課程開発」に取り組んできた。

【観点到る状況】

①接続期の始期・終期の設定

幼児期から児童期への移行期の配慮点等の可視化を図り、学びの芽生えから自覚的な学習へのなめらかな移行を促していく必要から、5歳児Ⅱ期から1年生7月までを接続期と設定した。

加えて、接続期後期となる小学校入門期のカリキュラムを小学校1学年担任と共同して作成

した。以下に4月の例のみを掲載する。

接続期後期（第1学年）のカリキュラム 1年生4月の指導計画

I 期（4月） わたしたち 一年生			
過ごし方 一年生になった喜びや不安を感じながら、学級担任や教室などの身近な人や環境に親しみをもってかかわるようになり、少しずつ小学校での生活の仕方が分かり始める時期。			
児童の姿	ねらい	指導内容	指導の要点と環境の構成の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな場所や教室のものに関心をもつ。 ○小学校での学習や生活に期待をもち、早く文具や教科書を使ってみたいと思ったり、遊具等で遊んでみたいと思ったりしている。 ○文字を書いたり音読したりすることを喜ぶ。 ○身近な物の数を唱えたり数字を書いたりしながら、数の学習を楽しむ。 ○発表の仕方を覚え、発表することを喜ぶ。友達への発表もはっきり聞くという授業の型に慣れていく。 ○日直の仕事を通して責任感をもち、自分の自信になり喜びを感じている。 ○年長者の学校生活（場所の使い方や挨拶など）を、あこがれの気持ちで見て自分もやってみようとしていたり、分からないことを教えてもらっている。 ○最初、少し不安をもちながらも登下校の仕方を保護者や先生に教えてもらい、次第に慣れ安心して登下校できる。 ○小学校の授業の進み方（発表や質問など）に関心をもったり、新しいきまりやルールがあることを知ったりする。その中で、幼稚園の生活との違いを感じながら、分かることやできることが増えていくことを喜び、安心して楽しく過ごす。 ○幼稚園からの友達に加え、新しい友達が増え、学級の友達とふれあい、楽しく過ごす。また、新しい先生や前から知っている先生とかわる中で、親しみや安心感を感じたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校での学習に期待をもち、文具や教科書を使ったり、授業を受けたりする。 ○先生や上級生に教えてもらいながら、いろいろな場所や生活の仕方を知っていく。 ○喜んで登校し、担任や友達に親しみをもってかかわり、不安や緊張感を和らげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文字や数字などに関心をもつ。 ・文字への興味・関心がわき、読んだり書いたりする。 ・音読を通して、文章を声に出して読む楽しさを味わう。 ・本を読む習慣を身につける。教科書や学級文庫、図書室の絵本や図鑑などに親しむ。 ・本の読み聞かせの時間を楽しむ。 ・身近な物の数を数えたり、唱えたりして、数への興味・関心がわく。 ・数え方の違いを知ったり、数の大小を捉えたりする。 ・時計の時刻を気にして学習したり遊んだりし、教室に集まったりしようとする。 ○小学校での集団生活に馴れる。 ・学校のルールやきまりを覚えていく。 ・挨拶や返事を丁寧にしようとする。 ・トイレの使い方が分かる。 ・持ち物の準備や始末の仕方が分かる。 ・みんなで使う物などのしまう場所や位置等が分かり、整理整頓しようとする。 ・安全に安心して休み時間の遊びを楽しむ。 ・喜んで登校するとともに登下校がスムーズにできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の言動や姿から児童は学びを深めていくため、言葉遣いや表情に気を付けて、話したり聞いたり書いたりする。 ・児童に目的をはっきりさせて指導する。 ・説明や話は、短く丁寧に、聞こうとする態度を認める。 ・注意する点、約束事等はしっかり話し、折にふれて伝える。 ・丁寧な指導を繰り返すことで深く定着していくようにする。 ・児童のよいところはしっかり認めて褒めることで自信をつけるような指導をする。 ○新しい活動や学習には、見通しがもてるようにし、時間にとりをもって活動できるようにする。 ・時刻を意識して活動できるよう、早めの集合や準備、片付けを心がける。 ○児童が安心して生活や学習ができるような環境づくりをし、個や集団に応じて丁寧に学校生活の仕方を伝えていく。 ・挨拶や返事、片付け、着替え、トイレ、生活リズム等の生活する力をつけられるようにする。 ・「おべんきょう」「学習」へのあこがれや意欲を大切に、興味関心を高められるような工夫をし、楽しく充実した時間を過ごせるようにする。 ・幼稚園生活の違いや、同じ点などを児童に伝えたり、話し合ったりして、学校生活がスムーズに送れるようにする。 ○教師はできるだけ教室で待つようにし、友達とうまくかわっていきけるよう、また、生活・学習等に慣れ親しめるような言葉をかけていく。 ○児童の人間関係や遊びなどに気をつけ、休み時間には、教師も一緒に遊ぶ時間を作る。 ・広い運動場や遊具等で思い切り遊べるよう、遊び方やルール等を知らせたり、一緒に遊びながら安全に安心して遊べるようにする。 ●合同研修や連携授業・・・幼稚園との連携 ●連絡帳や家庭訪問等により、児童の家庭との連携

②接続期の教育課程及び評価要素を示す。

接続期における科学的思考の評価要素表を作成することで、幼児期後期の発達を見とる視点が見えになり、幼小の指導方法の共有化が可能となった。

科学的思考を促す幼小接続教育課程の評価要素表 — 鳴門教育大学附属幼稚園方式 —

遊誘財が遊びを誘発するプロセス⁽¹⁾

- ①子どもたちに好奇心や興味を刺激し
- ②子どもたちが自発的に対象を操作することで対象に変化を引き起こし
- ③その変化に「なぜだろう？」と考えることをはじめ
- ④何かの因果関係やつながりなどに気づきはじめ
- ⑤面白い、驚き、好奇心、感動が生まれはじめ
- ⑥繰り返すなかで知識や技術、思考方法を獲得しはじめ
- ⑦何度もそのような仮説（過程）を繰り返すことで、目的をもって取り組むことをはじめ
- ⑧目的が達成されると達成感や精神的充実感により自信や有能感をもちはじめ
- ⑨自分たちがどのような可能性をもっているかが分かりはじめ
- ⑩それらのサイクルが友達同士で行われることで、人間を理解し関係を創造（調整）する力が形成されはじめ
- ⑪協力や協同の能力が育ちはじめ
- ⑫組織・集団（社会）への参加することの大切さや必要性を身に付けはじめ など

科学的思考が促されている姿（表現）に対する評価要素の項目

※科学的思考を促す幼小接続教育課程の評価要素表を作成する上で、各評価の項目は、幼児の具体的な姿（表現）が上記プロセスから生み出された姿（表現）であることを基本とする。

A 発見と問題解決

①好奇心・試行錯誤

- 美しいものや不思議なもの、未知のものなどに驚嘆したり、関心をもってかかわったりしようとする。
- 多様なものにかかわって、周囲の子どもたちや大人にたずねたり、自分で調べたり試したりしながら、試行錯誤する過程を楽しみ、そのものの特性に気付いたりする。

- 発見した喜びを味わったり、人に伝えたりして、意欲的に表現しようとする。
- 「なぜ、どうして」などと想像したり、自分のイメージで新しいものをつくり出そうとしたりする。

②論理的に理由付けされた行動

- 季節や天候にあわせて服や道具を使いこなす。(帽子・手袋・上着・雨傘など)
- 使った遊具や用具を片付けるとき、正しい場所に置く。
- 遊びに必要なものをそれぞれの置き場所から取る。
- 最初と最後の様子や過去と現在の状態から、つながりや因果関係を考えたり予測したりする。
- 自然に触れる中で、ものの仕組みや法則に気付く。

B. 言葉への関心

①話すこと・聞くこと

- 人の話や絵本・図鑑、テレビや新聞などの情報から、自分の周りの出来事に関心をもつ。
- うなずいたり相づちを打ったりしながら相手の話を聞き、「なるほど」と納得したりする。
- 主述をはっきりさせて自分の意見を言う。
- 出来事やものの特徴を、かかわっているものやことと結びつけながら、自分の言葉で説明する。
- 比喩や例を用いて話したり説明したりする。
- しりとり遊びやなぞなぞ遊び、カルタ遊びを楽しむ。
- 好きな絵本がいくつかあり、その内容について意欲的に話そうとする。
- 絵本を読んだ後やその日のミーティングなど、話し合いに参加する。
- トラブルが発生したとき、その理由を言葉で説明しようとする。

②書くこと

- 書いてあることに注意を向けたり関心を示したりする。
- 自分の名前が分かり、平仮名で書ける。
- 書きたいと思い、文字や表示(ロゴ)などを見ながらまねて書く。
- 友達と一緒に、絵本や表現して遊べるものをつくったりすることを楽しむ。(手紙・看板・メニュー・標識・切符・券・名札・カードなど)

C. 数量と図形(平面・立体・空間)

①数理的な見方や考え方や表現

- 対象を比べる
 - ・並べたり、重ねたり、入れ替えたりして、長さや大きさや強さや早さなどを比べたりしながら、もの数(数量)を見つけ出す。
 - 長いー短い(長さ) / 大きいー小さい(体積) / 多いー少ない(容積) / 重いー軽い(重さ) / 強いー弱い(強さ) / 早いー遅い(時間) / 速いー遅い(速さ) / 冷たいー熱い(温度) など
 - ・ものの形(図・形・空間)の違っている所(共通・相違点)に気付く。
 - 長いー短い(長さ) / 高いー低い(高さ) / 深いー浅い(深さ) / 広いー狭い(面積) / 丸いー角い(角度) など
- まとまりのある3つの群について、多少の区別をする。
 - ($A > C > B$) / ($A = B = C$)
- 毎日の欠席調べやけが調べで、誰も該当する人がいないときに0人だという表現や、お皿のクッキーを食べてしまったときに、全部無くなった(0個)と言うような表現を用いる。(0の概念形成)
- 人・個・本・枚など数詞を遣って話す。
- ～と比べて、～の方が、一番～など、関係と比較して表現する言葉を遣う。
- 今日の日付や曜日、現在の時刻を言ったり、時間や月日の順序を考えて話したりする。

②数えること・まとまりで把握すること(分離量や連続量)

- 生活の必要に応じて、事物を指さして数えたり、1対1対応させながら数える。
 - (例; 30人くらいの人数に合わせる。縄跳びやおやつ作りなど)
- 求めに応じて、「○○を○個」、「○○を○個」、「○○を○個」など、種類や数の違うものをとる。
- 前から○人目、右から○番目、下から○段目など順序や位置関係が分かる。
- 学級の友達と人数やものの個数を意識しながら、テーブルセッティングをする。(カレーライスやクッキーなど)
- お茶や牛乳などの液体を、同じサイズのコップでほぼ同じ量につき分けようとする。
- ひもや紙やホットケーキなどを、同じくらいの長さや大きさに切ったり分けたりしようとする。

③図形(平面・立体・空間)

- 体(目・鼻・耳・口・頬・眉・額・髪・腕・足・手など)やものなどの部位を意識して全体をつくったり描いたりしようとする。
- 興味をもったいろいろなものを模写しようとする。(例: 動植物や図や国旗や絵本など)

- 異なった形を区別して使用したり片付けたりする。(例；木の実や木の葉など自然素材や、ブロックや積み木・ままごと道具など分類して片付けたり使用するなど)
- 上から何段目、左から何番目など置き場所がわかる。
- 形や凹凸などの形状がきちんと当てはまるように注目しながら、作品や片付けを完成させることを喜ぶ。(ジグソーパズルや自作の遊具など)
- 折り紙を折ったり展開したりして器や立体をつくる。
- 真ん中や中心が分かって、バランスよくものをつくったり動かしたりする。
- 上下・左右・前後・斜めの空間的位置が分かり、動いたり人に伝えたりする。
- 積み木や空き箱・木片などを組み合わせて、家や基地、遊具などをつくる。

④パターンと組み合わせ

- ものの形(大きさ・長さ)や色の形状や特徴に応じて並べる。
- パターン化された6つくらいまでの物の数が直感でわかる。(例：トランプやサイコロの目)
- 並んだ絵の繰り返しに気付き、次にくるものを予測して楽しむ。
- カレンダーに関心をもち、生活の中で意識したり使ったりする。
- 日常の生活のリズムをつかんで、活動を見通したり、準備や始末をしたりする。
- いくつかの特徴で事物を分けたり仲間(集合)作りをしたりする。
- 自分自身でパターンをつくって楽しむ。(例 ビーズや木の実のアクセサリー・ものを描いたり物語を書いたり・動きの表現の中で)
- 拍やリズムに興味をもって、まねたり、呼応したり、替え歌をつくったりする。

D. 協同的感性

①協同的な言葉や表現

- 友達と一緒に歌ったり踊ったりして共鳴することを喜ぶ。
- 役割を分担したり、役に合わせた表現を工夫してごっこ遊びを楽しむ。
- 友達と活動の目的や目標などについて話し合う。
- 相手の意見と自分の意見の違いや共通点について気付き、話し合う。

②人間を理解し関係を調整する力(21項目)

- 異質なものととの出会い
 - ①自分の思うようにならないことを体験する。
 - ②必要なときに、人に助けを求める。
 - ③他者が「いや」という行為や事柄に関心をもち。
 - ④自分がされて嫌なことには、そのことを態度や言葉で表現する。
 - ⑤嫌なことを受け流したり、距離をおいて付き合ったりする。
 - ⑥自分と異なる行動や意見に対して考えるゆとりをもつ。
- 異質なものへの興味や関心
 - ⑦他者の行為や言葉に関心をもち。
 - ⑧他者の思い入れや思い入れのあるものに気付く。
 - ⑨他者の言い分に真剣に耳を傾けて聞く。
 - ⑩感情を含めた言葉や論理的な言葉で伝えたり説明したりする。
 - ⑪他者の行為の意味について想像力を働かせる。
- 他者との交流
 - ⑫友達の遊びや活動に入ったり、友達を誘ったり、受け入れたりする。
 - ⑬活動や遊びの中で、やりたいことをしたり、なりたい自分を表現したりする。
 - ⑭イメージを共有したり、役割を分担したりしようとする。
 - ⑮自分の気持ちや行動、他者からの評価などの変化に気付いたり関心をもちたりする。
 - ⑯自分や他者の良さに気付いたりそれを生かしたりする。
 - ⑰自分と違うところをもつ人に憧れる。
- 関係性をつくる
 - ⑱友達や他者に共感したり応援したり励ましたりする。
 - ⑲仲間のトラブルに介入したり、関係を調整したりする。
 - ⑳緊張した場面をユーモアで和ませたり解決したりする。
 - ㉑問題に対して創造的に解決しようとする。

【分析結果と根拠理由】

幼児期に科学的思考の萌芽を育てたいと願う私たちは、「科学」の意味や概念を次のように整理した。幼児を取り巻く環境やそれらへのかかわりを観察すると、「サイエンス」(科学, 英: science. 事物の構造や法則を探究する人間の理性的な認識活動およびその所産としての理論的、体系的な知識を意味する* 哲学事典 1997 平凡社 p222) と「テクノロジー」(科学技術, 英: Technology. 機械や装置の体系およびそれらを組織的に運用して、人間が目的を実現していく技術的な手段や方法の体系を意味する* p792) という科学の二つの側面を見て取ることができる。幼児の「不思議」や感動の感性は世界のあらゆる事象を対象に拓かれた「サイエンス」

の萌芽であり、暮らすことは生活の様々な「テクノロジー」に触れて学ぶ体験である。両者は深く関連し合い、相互作用しながら高められていくものと考えている。

幼児期から児童期を一つの枠組みとした接続期を設定して、幼児期の遊びを通して育つ科学的思考力を考察した場合、「自分自身の概念を形成していくという視点」で、生活科を貫き理科につながる科学的思考力の基礎が認められた。自分の言葉を通して伝える・自分の言葉で説明する力、科学的概念を“なるほど”と納得できる力が、文字や言葉・数量や図形・協同性の発達と関連していることがこれまでの研究で確認できた。

以上のような研究結果から、幼児の不思議や感動の感性と生活の様々なテクノロジーに触れて学ぶ体験を軸に、小学校1年生の生活科をはじめとした各教科との関連性を考慮し、「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量） ③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」の項目を設けた。それぞれの項目には、さらに具体的な幼児の姿を例示している。心情や意欲、興味や関心といった内面的な側面と、行動や態度、技術、知識のような外に向けて顕在化される姿とが混在していることは、むしろ接続期の評価としてふさわしいと考えた。

科学的思考が促されている姿（表現）に対する評価要素の各項目と内容は、「ノルウェーの幼稚園において遊びと日常生活から観察される Toddler の数学的有能さ、佐々木宏子抄訳／未定稿」を参考に、200 にのぼる事例（「遊誘財データベース事例集 科学的思考」「遊誘財データベース表 科学的思考」）の分析と分類によるものである。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

幼児期から児童期への学校教育の接続という観点から発達や学びの連続性が捉えられている。特に、小学校1年生の生活科をはじめとした各教科との関連性が考慮されていることが、カテゴリ設定に現れている。「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」。

【改善を要する点】

今後数年間をかけて、幼児・児童の学びや育ちの現状に照らし合わせながら、さらなる改善が必要である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている」と判断する。

自己評価の基準

- A 十分達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが、成果が十分でない
 - D 取組が不十分である
- ※評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

評価項目 2 保健安全管理

(1) 観点ごとの分析

観点 2-1 保健計画の作成・実施の状況，園の環境衛生の管理状況

【観点到係る状況】

(1) 月別の指導計画の見直しの実施

今年度も月別の指導計画を毎月見直し，幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や，月ごとにかかりやすい疾病の予防などについて計画を立て，それに沿って保健管理や保健指導を実施した。また，昨年度より，各保育室に冷房が設置されたため，室内での活動において熱中症が発生する危険性は少なかった。しかし，今年度も夏季は酷暑が続いたため，園内での夏の過ごし方については，木陰で時々休むように声をかけたり，水分を補給する，外で活動するときには帽子を着用する，ミスト噴霧器を活用するなど，格別の注意を払うよう努力した。また，インフルエンザ等の感染症の流行シーズンを前に，他の教員に協力してもらい手洗いの指導を行うなど予防に取り組んだ。

(2) 保護者への保健指導に関する協力

絵本の貸し出し時間を利用し，各組ごとに保護者に対して講話をし，むし歯予防に対する知識を高めた。また，長期休業日前には基本的な生活習慣についての講話もした。中でも，年長児クラスの保護者対象には，小学校入学に向けて食育も含めての具体的な話をし，理解を促した。また，毎月「ほけんだより」を配付して，夏季には熱中症予防対策についてや冬季では感染症の予防についてなどの情報を提供し，家庭での指導に役立てるよう協力を求めてきた。

(3) 園の環境衛生

学校薬剤師による指導や定期的な検査により，細菌・水質等園内の環境安全管理に努めている。また，砂場や遊具など園児が直接接触れるものについては，消毒をするなどの配慮をしている。今年度は，インフルエンザ等の感染症の流行シーズンの前に，各部屋に塩素系の除菌剤を置くなどして予防に努めた。

【分析結果と根拠理由】

年度当初に昨年度の反省をもとに保健室の指導計画を立て，健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っている。保護者による学校評価アンケートにおいて，「毎月のほけんだよりは，大変読みやすく，毎月楽しみに目を通している」との意見もいただいた。ただ，緊急を要する対応が必要な場合には，状況に応じて計画を改定していくことが大切であると考えている。

資料2-① 保健室10月の指導計画

保健室10月の指導計画

【幼児の姿】

○登園時
 ・「今日は暑いね。」「今日はちょっと涼しいね。」と、気温の変化を肌で感じている様子で、服装を半袖にしたリ、長袖にしたリ、調節している。
 ・気温の変化が大きいことから、風邪をひいて鼻水が出たり、咳がでたりする幼児が増えてくる。また、発熱や喘息の発作のため、欠席する幼児もいる。

○活動時
 ・汗をかいたり、砂遊びや泥だんご遊びで衣服が濡れたときなどは自分で着替えようとしている。
 ・運動会に向けて、ダンスやかけっこ、一輪車の練習など、思い切り体を動かして遊んでいる。
 ・遠足やピクニック、芋掘りなどの園外保育で、自然の中で体を十分に動かし、ドングリや虫などを採って楽しそうに遊ぶことができる。

・インフルエンザの予防をしようとする。
 ・気温や自分の体の調子にあわせて衣服の調節をしようとする。
 ・目を大切にする。
 ・戸外で思い切り体を動かして遊ぶ。

指導内容	指導の要点と環境の構成の留意点
○インフルエンザの予防をする。 ・手洗い・うがいの大切さを知り 実行できるようにする。	○インフルエンザの予防には、うがい・手洗いが大切であることを知らせ、すすんで実行できるようにさせる。 ・登園時やおやつの前や外から帰った後は、速乾性手指消毒剤をつかって手指を消毒するよう声をかける。
○汗の始末や着替えをする。 ・下着着用の大切さを知る。 ・濡れたり汗をかいたらすぐに、自分で気が付いて着替える。 ・汗をかいたら拭く。	○汗の不始末が病気につながることを知らせ、タオルで汗を拭いたり、清潔な下着に着替えることを促す。 ・水遊び等で衣服が濡れた時、着替えをすることにより、気持ちが良くなることに気づいていけるようにする。
○暑くなったら脱ぐ、寒くなったら着るなど、活動内容に合わせて衣服の調節をしようとする。	○園庭や屋上で遊んで暑くなったとき、1枚上着を脱ぐことで快適に過ごせることや、逆に、「寒い!」と訴えて来室した幼児に対しては、1枚上着を着せ、温かくなることを実感させる。
○けがをしたときや、体調の悪い時は、早めに保健室に来る。 ・擦り傷をした時は水で洗ってから保健室に来る。 ・気分が悪くなったら、無理をせずに休憩をする。	○運動会の練習などで、転んで擦りむいた時などは、すぐに水で洗って、土を洗い流すようにさせ、細菌が繁殖しないように気をつける。熱中症気味の幼児に対しては、涼しい部屋でわきの下や首を冷やすなどの処置をし、安静にさせる。
○目を大切にする。 ・視力・聴力検査を実施する。(年中児)	○悪い姿勢で本を読んだり、暗い部屋でゲームを続けることは目に良くないことを知らせたり、目に良い食べ物を紹介し、生活に取り入れることができるようにする。
(保護者への対応) ＊保護者との連携を図り、就学時健康診断について知らせる。 ・健康相談を実施する。	＊年長児は就学時の健康診断を指定された小学校で受診しなければならないことを保護者に伝え、子ども達の健康状態をチェックすると共に基本的な生活習慣を見直す良い機会とする。また、健康相談の機会を設け、保護者の悩みや相談に応じる。

別添資料 2-①
 ほけんだより 10月号

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

指導計画に基づいて保健指導を実施し、職員会において毎月の指導計画を見直し、全職員で園の保健指導体制やその内容について協議するなど、幼児や園の実態に応じてよりよく改定している。

【改善を要する点】

毎月の保健指導に関し、幼児や保護者に対して発信する機会を増やすなど、もう少し改善の必要があると思われる。特に、流行性の疾病については、その対処方法が変わるなど、その時期の実態にあった正しい情報を提供する必要がある。

観点 2-2 危機管理対策の見直しと強化

【観点に係る状況】

「平成25年度安全管理計画－危機管理マニュアル－」（別添資料2-②）を昨年度の反省にたち見直した上で作成し、それに基づき計画的に安全管理を実施している。また、毎月20日の学校安全の日には、教職員が2人組で園内の安全点検を実施し、危険箇所などは速やかに修理・修繕をするなど、対応をしている。また、6月には教職員が附属小学校の教職員とともに救急法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得、実技講習を行っている。

資料2-② 防災・避難訓練の実施

① 防災訓練（地震）計画

- ・ねらい ・実際に地震が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成25年5月14日（火） 9：45～10：00

② 避難訓練（不審者対応）計画

- ・ねらい ・実際に保育中不審者が侵入してきた場合、保育者の指示に従って速やかに行動できるよう、安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・期 日 平成25年6月3日（月） 10：50～11：05
- ・状況設定 幼稚園の敷地内への不審者の侵入を許した場合を想定
不審者が幼小連携畑から幼稚園敷地内に侵入。

③ 防災訓練（地震・火災）計画

- ・ねらい ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成25年9月2日（月） 9：40～9：55

④ 幼小合同避難訓練（地震・津波）計画

- ・ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成25年10月15日（火） 10：39～11：00

⑤ 緊急地震速報受信訓練

- ・期 日 平成25年11月29日（金）

⑥ 防災訓練（火災・地震）計画

- ・ねらい ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成26年1月10日（金） 9：40～10：25

【分析結果と根拠理由】

危機管理マニュアルについて、年度当初に職員会で周知しているので、避難訓練の際さらに詳しく確認するよう努めている。

別添資料 2-② 平成25年度安全管理計画－危機管理マニュアル－

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

危機管理マニュアル（安全管理計画）に基づき、毎日、毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより、事故の防止に努めるとともに、幼児に対して安全な避難の仕方を身に付けさせたり、生命や身体を守ることの大切さを知らせることができるようにしている。本年度は避難方法が一目でわかる一枚もののマニュアルを作成し教職員・保護者に周知した。あわせて、災害ダイヤルの利用の仕方についても、試行体験をするなど、保護者への周知に努めた。また、様々な場面での訓練を実施し、1月の避難訓練では教職員にも訓練の時間を予告しないで実施した。訓練の際には幼児が防災頭巾を着用して、より安全に避難できるように練習している。また、毎年、教職員が救急法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得る実技講習を実施することで、安全対応の能力の向上に役立てている。また、大学より防災用備蓄品を購入してもらい、もしもの場合に備えた飲料・食料・衛生用品の準備がほぼ整った。

【改善を要する点】

管理職や養護教諭が不在時の対応や、地震・津波・火災など様々な場面を想定した避難の仕方など、訓練が形骸化しないよう、より多くの訓練を新たに検討する必要があると思われる。幼稚園の避難場所は小学校に想定されているので、さまざまな非常用の備品や備蓄品などの保管場所の検討が必要である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

評価項目3 組織運営

(1) 観点ごとの分析

観点3 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

【観点到る状況】

本園は、研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制を組織している。3主任を責任者として配置して、それを園長・教頭が統括するという園務分掌を定めていたが、昨年度より園務分掌の見直しを図り、園務の効率化から教頭が教務主任を兼任している。

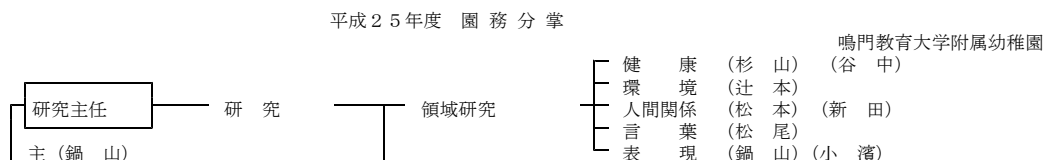
そして、研究・教育実習・教務各部に配置されている副主任という立場が機能していなかったという反省に立ち、主任をサポートできる体制をとるように心がけた。また、互いに協力して園務の能率化・省力化が図れるよう配慮し、個々の教職員が、「自分は園の一員である」という自覚をもてるよう、各種行事における責任者を分担制（主任・副主任）にし、主体的

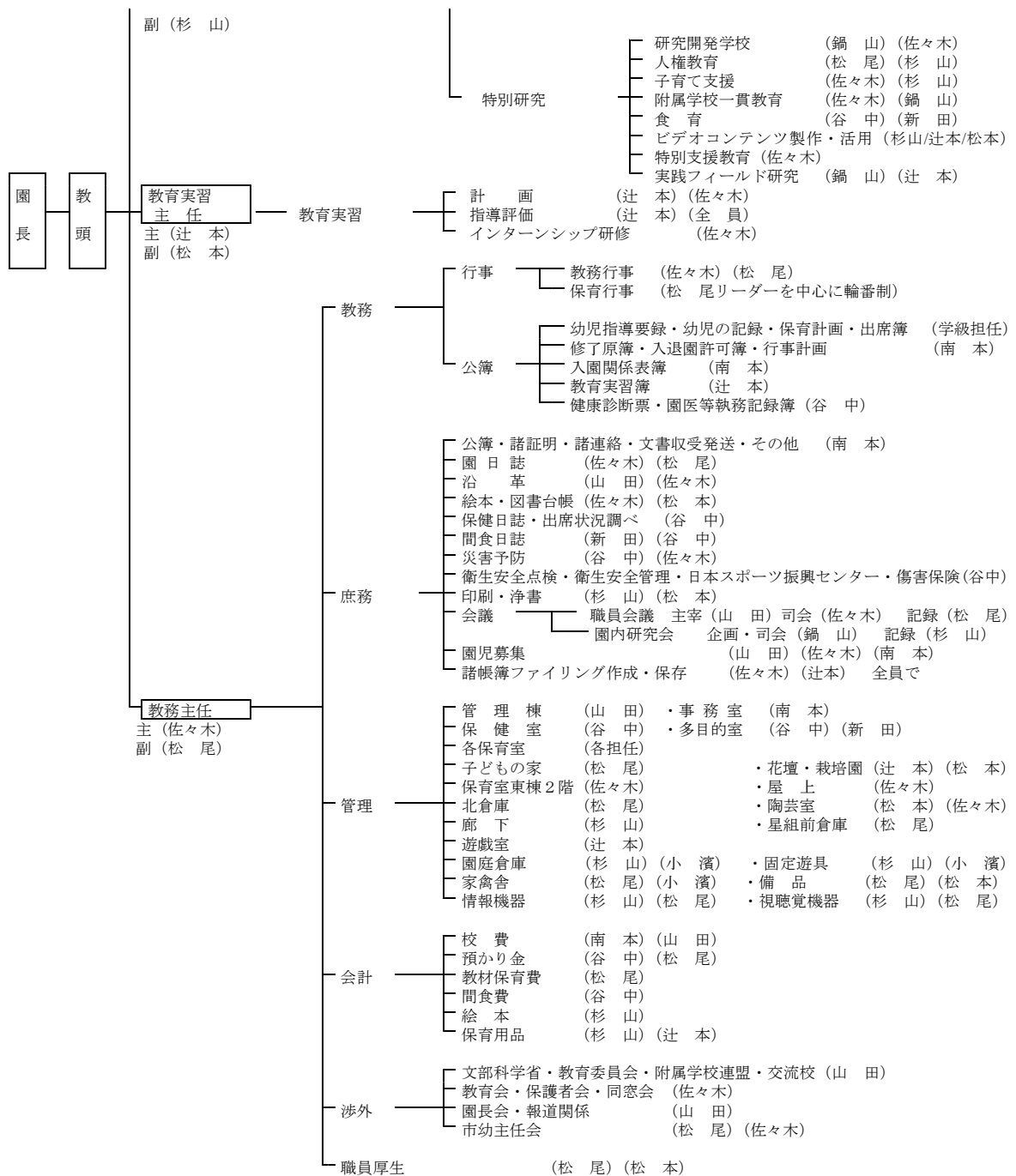
に園経営に参加できるように努めた。園運営に関する事項については、毎月の定例職員会議で、担当責任者が議題や報告にあげ、全職員で協議し共通理解を図ったうえで対応し、必ず次年度に向けた反省を欠かさないようにしている。その他においても必要に応じ、協議する機会をとっている。

資料3-① 平成25年度第1回職員会議題

平成25年度 第1回 職員 会議		鳴門教育大学附属幼稚園
と き	平成25年4月1日(月)	10:00～
と ころ	附属幼稚園多目的室	
議 事	園 長あいさつ 転入者あいさつ	
1 協議事項		(担任者)
(1) 平成25年度人事異動について	資料1	(園 長)
(2) 平成25年度 教頭・主任発令・学級担任及び領域研究について	資料1	(園 長)
(3) 鳴門教育大学附属幼稚園園則・同大学中期計画・就業規則等について	資料2	(園 長)
(4) 平成25年度 園経営方針について	資料3	(園 長)
(5) 平成25年度 職員の勤務について	資料4	(園 長)
(6) 平成25年度 園務分掌について	資料5	(園 長)
(7) 平成25年度 年間行事計画について	資料6	(教 頭)
(8) 平成25年度 学年始休業中の計画表	資料7	(教 頭)
(9) 4月の行事予定について	資料8	(教 頭)
(10) 新学期諸準備について	資料9	(教 頭)
(11) 始業式について	資料10	(教 頭)
(12) 新入園児用品渡しについて	資料11	(杉 山)
(13) 附属幼稚園職員連絡網・教職員名簿について	資料12	(教 頭)
(14) 入園式について	資料13	(教 頭)
(15) 芙蓉会規程について	資料14	(南 本)
(16) みどり会事業計画・奨学寄付金等について	資料15	(教 頭)
(17) 園児緊急連絡網等について		(教 頭)
(18) 変形時間労働制年間カレンダーについて	資料16	(南 本)
(19) 平成25年度 幼稚園要覧について	資料17	(佐々木)
2 連絡事項		
(1) 文書整理・情報管理等について		(園 長)
(2) 経費節減について		(園 長)
3 その他		
(1) 労働環境協議会役員改選について		(園 長)
(2) ハラスメント相談委員改選について		(園 長)

資料3-② 平成25年度園務分掌一覧表





【分析結果と根拠理由】

上記資料のような組織で園務を分掌し、幼稚園運営に行っている。少人数で多岐にわたる業務を分担しているため、個々への負担が大きいかかわらず、各々が責任をもって園運営にあたっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

園務分掌がかなり詳細にわたって明記されているのは、少ない人数組織の中での責任の所在や業務内容を明確にするためである。そのため責任担当者を複数体制で組織し、共通理解

や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるようにしている。また、年度当初に示した全体計画に沿って、担当者が計画立案した資料を職員会議にて協議・決定をする。かつ、後日全員で再確認のための打ち合わせを行い、確実に実施できるよう努めている。実施後は全員で反省し、次年度に向けての改善策を話し合い、記録に残していくようにしている。

【改善を要する点】

教育・研究・教育実習・子育て支援等、園の業務内容は膨大である。分担制で遂行すると時間を有効に活用でき効率的であるのだが、教職員が少人数であるため、同時進行ができていく状況にある。全員で取りかかるべき場合と、そうではない場合を明確にし、運営の効率化を図る必要がある。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 B 達成されている」と判断する。

評価項目 4 研修

(1) 観点ごとの分析

観点 4 園内外における研修の実施及び参加状況

【観点到係る状況】

①園内研究会・合同研究会

今年度は文部科学省研究開発学校指定の3年目の成果をまとめるべく、「幼小接続の教育課程開発—遊誘財が引き出す科学的思考Ⅲ—」の研究主題のもと研究を進めた。その中で、幼小合同保育授業や幼小接続部会での意見交換などを通して、幼児・児童それぞれに研究課題やねらいに対応した変容が見られ、教師の認識や態度が変容したことも確認された。

また、研究主任の計画のもと、週1回程度の園内研究会、月1～2回程度の合同研究会を他所属（大学・公立幼稚園・小学校等）の教員にも参加を呼びかけて開催した。今年度の合同研究会は、幼小接続部会と遊誘財部会とに分かれ、1ヶ月に1回ずつ行った。遊誘財部会では特に大学教員の参加が多くあり、共同研究を推進することができている。本園の研究を広く情報発信するために発刊した「遊誘財リーフレットNo.1, No.2, No.3」は高い評価を受けている。今年度はその成果を引き継ぎ、平成25年度幼児教育研究会に合わせ、「遊誘財リーフレットNo.4」を発刊した。また、幼小接続部会では小学校教員の協力を得て「幼小接続後期指導計画」（第1学年4月～7月）を作成した。

11月16日（土）には幼児教育研究会を開催し成果発表を行った。県内外より538名の参加者を得て、「幼小接続の教育課程開発—遊誘財がひきだす科学的思考Ⅲ—」のテーマで発表を行い、文部科学省津金美智子幼児教育課教科調査官の指導講評をいただいた。

②その他園内研修

保育技術のスキル向上のため、次のような研修を実施した。

・園芸研修 ・パソコン研修 ・リズム表現研修 等

③園外の研修会等への参加

・文科省等主催の研修	幼稚園担当指導主事・担当者会議	1名
	幼稚園教育理解推進事業中央協議会	1名
	研究開発学校研究協議会	1名

- ・全附連幼稚園部会「幼稚園教育研究集会」分科会にて発表。四附連等の研究会への参加等
- ・日本保育学会自主シンポジウムにて発表（幼年発達支援コースと共同）
- ・日本乳幼児教育学会自主シンポジウムにて発表
- ・県・市教委主催の県・市国公立幼稚園長会，国・県幼稚園教育課程研究協議会，養護教諭研修会，学校保健安全研究協議会，幼稚園等新規採用教諭研修，等
- ・全国及び県・市幼稚園教育研究協議会，全幼研，教育会主催の研究会 等
- ・その他セミナー・学会・研究会 等

上記のような数多くの研究会・研修会に園務に支障のない限りできるだけ積極的に参加し，そこで研究発表や話題提供なども行っている。

【分析結果と根拠理由】

毎週定例の園内研究会や合同研究会で，今年度の研究テーマに取り組んできた。幼児期の遊びや生活の中で芽生えた学びが，小学校での自覚的な学びへとどのような道筋をたどって育っていくのかを考察し，幼小接続の教育課程を作成した。また，科学的思考を促す接続期の教育課程の評価の視点として，「評価要素表」を提案した。日々の保育記録や幼児の記録，エピソード記録等を元に保育カンファレンスを実施し協議を重ねたり，今年度も研究保育を実施したことは，教員の指導力向上に直結し，保育の質の向上に寄与したと思われる。

また，園外での研究会・研修会の参加も多岐にわたり，参加職員による報告会をもつなどして職員全体で現在の幼児教育に関する最新の情報を共有している。このことから，教員の資質向上のための園内外での研修は充実していると言える。

別添資料 4-① 研究紀要第47集「幼小接続の教育課程開発－遊誘財がひきだす科学的思考Ⅲ－」（2013. 11. 16発行）
 別添資料 4-② 遊誘財リーフレットNo.4（2013. 11. 11発行）

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

合同研究会では，幼年発達支援コースはじめ自然系コース（数学）など，本学教員や附属小学校教員などの人的資源を得て，多面的な視点からの保育カンファレンスで協議が深められた。これまで構築してきた実践資料を整理し，実際に保育を行った保育者らによる保育記録の分析がすすめられた。

大学教員から直接専門的な助言や指導を得られることは附属園の利点であり，教員の指導力・資質向上に確実に繋がっている。また，幼児教育現場の最新の情報を得ることもでき，広い視野で保育の質を考えることができた。

全国附属校園が集う研究会や県主催の研究会等は，他所属の教員との交流や意見交換ができ，自らの実践を見直したり，新たな刺激を受けたりでき，教員の教育研究へ向かう意欲が高まっている。また，研修会参加者は研修報告を行うことで研修成果を全職員に伝達している。担任外教員（非常勤講師）が配置されていることや，派遣経費の一部は保護者からの奨学寄附金から支出しているため，数多くの研修会への派遣が可能となっている。

【改善を要する点】

大学附属の利点を生かし他大学教員や附属学校教員など，豊かで質の高い大学の人的・文化的環境を資質向上を図る研修に活用できるよう，多面的な連携研究を積極的に働きかけた。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている」と判断する。

評価項目5 教育環境整備

(1) 観点ごとの分析

観点5 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

【観点到る状況】

営繕工事の計画・実施の状況

営繕工事要求書に基づき、大学施設課による現場視察が行われ状況把握がなされた。しかし、昨年度かなりの予算をかけて従前からの要求が実現されたため、今年度は、幼稚園の運営交付金を利用しての、微細な部分の営繕に努めた。

資料5—① 平成25年度附属幼稚園営繕工事要求書

要求順位	工事内容	要求理由
1	渡り廊下の屋根の整備(張替)	渡り廊下の上の屋根は老朽化で元の塗装はほとんど落ち、留め金具の錆びや腐食が進んでいる。雨漏り防止と、雨天時の園児の活動の場の確保のため、渡り廊下東側に伸張した屋根に早急に張替を願う。 また、2年前には台風による大雨の影響で溜まった雨水が漏れ、漏電かどうか不明ではあるが、火災警報機が鳴る騒ぎがあった。
2	園舎外壁の補修及び塗装	園舎外壁全体にモルタルの剥がれ落ちや、ひび割れがありひどい状態である。園児の安全確保や美観のためにも補修を願う。雨どいの腐食もひどい。
3	3歳保育室の床の張り替え	3歳児の保育室の床が古く、かなり傷んでいる。上に浮いている部分や塗装の剥がれがみられ、安全面からも張り替えが必要である。
4	屋上に遮光テントに代わるものの設置	北棟屋上は一輪車乗りやごっこ遊びによく活用しているが、陽差しのきつい時に長時間集中して活動すると幼児には体力面・健康面の負担がかかる。最近、幼児期からの紫外線対策についても細心の注意を払う必要があり、北棟屋上の一部に遮光テントの設置を要求していたが、構造上不可との回答だった。そこで、代替としてフェンスから遮光ネット(軽量)を張れるような取り付けをして欲しい。
5	西側フェンス設置	幼稚園西側に10階建ての分譲マンションが建設された。現有の西側フェンスは低くマンションが高いため死角が出来ることになり、外部から容易に侵入されてしまう危険性がある。幼児の安全管理のため、早急に現有のものより高いフェンスの設置を願う。
6	築山関係の整備	築山の土の流出がひどい。勾配があるため、雨天時には土が流れ落ちてしまう。その度毎に、盛り土をして人の力で固めるのだが、同じような状態になり解決していない。また、その下にあるトンネル入り口のコンクリートが剥がれ落ちており危険である。
7	屋上の水はけ	雨天時には水がたまり、数日たたないと使用できない状態である。

・施設・設備の充実整備の状況

老朽化していた中庭のテントのうち、テント・接続部器具等が破損していたものについて

新調し、台風時も含み安全管理に努めることができた。

また、カーテン・ブラインド等において古いものについて新調した。

今年度も地震速報装置（緊急災害情報受信端末装置）が緊急時に作動することを訓練で確認した。

- ・今年度新規購入した遊具・用具等の状況

年中組用机・ジョイントすのこ・大型ブロック用台車等

【分析結果と根拠理由】

環境を通して行うことが基本の幼稚園教育では、施設・設備・遊具・用具等の整備を常に意識し、幼児が生活しやすいよりよい教育環境作りに徹している。また、点検のシステムを確立させることで、職員の安全に対する意識を高め、潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所を確実に見つけ出し、附属学校チームや大学施設課による迅速な対応がなされた。

本園の環境整備についてのアンケート集計結果は、オープンスクールでは100%が、幼児教育研究会では94.7%がよく整っていると認めている。

参観者及び研修会参加者によるアンケート集計結果（資料5-②）では、「施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか」では、96%がA・B評価としている。

資料5-① 平成25年度 施設設備工事等一覧

	事 項
1	大型ブロック用台車（8台）
2	床ワックス清掃業務
3	ボイラー室後の部屋のブラインド取付，ならびに教教室のカーテン新設
4	園長室のブラインド・年少組のカーテン新調
5	中庭のテント張り替え
6	保育室用机（年中用）
7	防災用備蓄品（毛布・保存水・ビスケット・カンパン）

資料5-② 平成25年度 参観者によるアンケート集計結果

平成25年度 附属幼稚園 参観者及び研修会参加者によるアンケート集計結果
*実施日：平成25年4月～平成26年2月 75名

アンケート項目	A	B	C	D	無	計
① 本園の環境は、幼児期にふさわしい教育環境でしょうか。	68 90.67%	7 9.33%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	75 100.00%
② 本園の目指す教育目標や教育方針は、適切でしょうか。	67 89.33%	8 10.67%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	75 100.00%
③ 幼児の基本的な生活習慣自立への援助は適切でしたか。	65 86.67%	8 10.67%	1 1.33%	0 0.00%	1 1.33%	75 100.00%
④ 幼児は、豊かな自然体験や直接体験ができていましたか。	68 90.67%	7 9.33%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	75 100.00%
⑤ 幼児は、創造的な表現活動ができていましたか。	65 86.67%	9 12.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.33%	75 100.00%
⑥ 幼児は、遊びの中で試したり考えたりする学びが得られていましたか。	64 85.34%	10 13.33%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.33%	75 100.00%
⑦ 幼児は、友達と一緒に、楽しく充実した園生活ができていましたか。	66 88.00%	8 10.67%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.33%	75 100.00%
⑧ 一人一人の幼児の発達や心情を尊重した保育ができていましたか。	57 76.00%	15 20.00%	0 0.00%	0 0.00%	3 4.00%	75 100.00%
⑨ 施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか。	56 74.67%	16 21.33%	2 2.67%	0 0.00%	1 1.33%	75 100.00%
⑩ 大学との連携による研究成果が、教育実践に生かされてきましたか。	53 70.67%	17 22.67%	0 0.00%	2 2.67%	3 4.00%	75 100.01%
⑪ 保護者も子育てについて学び、共に育ちあう雰囲気が出ていましたか。	68 90.67%	5 6.67%	0 0.00%	0 0.00%	2 2.67%	75 100.01%
⑫ 来客に対する本日の教職員の対応は、適切でしたか。	72 96.00%	3 4.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	75 100.00%

【A: そう思う B: だいたいそう思う C: あまり思わない D: そう思わない 無: 無回答】

別添資料	1-①	平成25年度	附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料	1-②	平成25年度	附属幼稚園幼児教育研究会アンケート集計結果

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

安全点検は複数体制をとるなどして、よく機能している。施設・設備の不備についてはすぐに設置者との連携をとるようにし、教育環境が常に美しく整備されている。

【改善を要する点】

現在の園舎は、昭和44年に建築されたもので、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ、配管などの老朽化が目立つので、園舎改修を切望している。

教職員による環境整備は入念に実施できているので、施設・設備面での改善を必要とする。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

評価項目6 教育実習

(1) 観点ごとの分析

観点6 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

【観点到に係る状況】

今年度の教育実習の実施状況は、次のとおりである。

①ふれあい実習 9月9日

学部1年生幼児教育専修5名・長期履修生(大学院)1名

目的：教育実習実践現場の様子を観察することにより、教職及び幼児理解を深める。子どもとのふれあいを通して、体験的に子どもの姿を学びとり子どもへの理解を深める。教職への意欲を高めるとともに、教職に向けての自己課題を明確にする。

②附属学校園観察実習 6月11日, 12日

学部3年生5名・長期履修生(大学院)3名

目的：附属幼稚園での保育参加を通して「保育の成立要因」の明確化を図る。幼児への関わり方を観察・体験したり、実習生の取り組みや附属教員の实習指導の様子を受けとめたりすることにより、教育実習への自己課題の明確化を図る。

③附属校園実習・教員インターンシップ オリエンテーション 7月16日

学部3年生5名・長期履修生(大学院)3名

④附属学校園実習 9月2日～9月27日

学部3年生5名・長期履修生(大学院)3名

目的：学習指導、幼児、生徒指導、学級経営など、教育活動全般にわたっての実習体験を重ねることにより、「教師として具有すべき指導方法」を実践的に学ぶ。特に保育・授業における基本的指導技術を習得することが主たる目的である。計画表は<資料6-①>

保育実習について

毎日、担任指導教員に教育実習録・保育案を提出し、週に1度、観察記録・週の指導記録・幼児の記録を提出する。当初は、指導計画立案に長時間を要していたが、少しずつ観点を押さえて整合性のある保育案を作成できるようになってきた。保育後は、その日の幼児の生活ぶりを記録し、保育を振り返るミーティングを深めた。遊びの中の教育的価値・活動内容や経過・先の発展見通し・環境構成・時間の配分・幼児の発達の実情・内面理解・友達関係・教育課程や月別指導計画との関連・ねらいや内容の妥当性など、自らの言動を振り返りながら、子どもの姿を通して、保育の基本姿勢や考え方を学んでいった。

また、週ごとに<資料6-②>の自己評価を実施し、自分の課題が明確になっていった。

資料6-① 附属学校園実習 実地教育計画表

平成25年度 鳴門教育大学附属幼稚園 実地教育計画表

(○全体 ●学級・学年)

週	月/日	曜	行 事	実習要項	指 導 要 項	備 考
1	9月2日	月	教育実習開始 対面式 避難訓練 みどり会理事会	観察参加	○教育実習の意義(園長) ●9月の指導計画について ●第1週保育内容について ●記録のとり方について	諸書類提出 記念写真撮影
	9月3日	火	身体測定 (3歳児)	保育(一部)	○本園の教育について(園長) ○学級経営・学級事務(佐々木) ●領域研究・環境	入園希望者参観
	9月4日	水	午後保育日	保育(一部)	○本園の教育課程・指導計画・日案, 幼児理解と幼児指導について(佐々木) ●領域研究・言葉	
	9月5日	木	研究保育	観察参加	○保育説明・保育協議(各担任) ●領域研究・人間関係	
	9月6日	金	視力検査(5歳児)	保育(一部)	○教育講演会参加 ●第2週保育内容について	教育講演会
	9月7日	土				
	9月8日	日				
2	9月9日	月	〈救急の日〉 ふれあい実習(1年) 午後保育日	保育(一日)	○家庭との連携, 保健・安全指導について(佐々木) ●領域研究・健康	第1週記録 第2週計画提出
	9月10日	火		保育(一日)	○本園の人権教育について(佐々木)	
	9月11日	水	午後保育日	保育(一日)	○行事教育-運動会・園外保育について(佐々木) ●領域研究・表現	
	9月12日	木		保育(一日)		入園希望者参観
	9月13日	金	午後保育日	保育(一日)	○研究保育者決定・評価保育日程について(辻本) ●第3週保育内容について	
	9月14日	土				
	9月15日	日				
3	9月16日	月	〈敬老の日〉			
	9月17日	火	ふれあい実習予備日 職員会議	保育(一日)	○研究保育案作成	第2週記録 第3週計画提出

9月18日	水	午後保育日	保育(一日)	○研究保育案作成(印刷・環境準備)	入園希望者参観
9月19日	木	実習生研究保育	研究保育	○研究保育反省会	
9月20日	金	学校安全の日		●第4週保育内容, 評価保育について ●評価保育①指導案作成	
9月21日	土				
9月22日	日				
9月23日		(秋分の日)			
9月24日	火		評価保育① (一日)	●評価保育①反省会 ●評価保育②指導案作成	
9月25日	水	午後保育日 園外保育(芋掘り)	保育(一部)		
9月26日	木		評価保育②	●評価保育②反省会	入園希望者参観
9月27日	金	教育実習終了	保育(一部)	○教育実習反省会	
10月5日	土	運動会			
10月6日	日	運動会予備日			

資料6-② 自己評価観点表

評価観点	第一週	第二週
幼児理解	<ul style="list-style-type: none"> ・観察参加の中で幼児の行動観察記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。 ・自分のかかわった幼児を中心に、遊びの様子やエピソードを記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の行動観察記録やエピソード記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。 ・幼児の行為(現象)について記録し、その意味について考察する。 ・一人一人の幼児の発達の状況と指導の重点について記述し、幼児理解を進める。
環境の構成と指導案の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員の保育を観察し、環境の構成や具体的な指導について記録し、基本的な保育の構えと意味について理解する。 ・幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。 ・教育課程と指導計画について理解を進める。 ・一部保育場面についての指導案を作成し、指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程と指導計画の関連について考察しながら、一部保育場面及び一日の保育についての指導案を作成し、指導を行う。 ・幼児の実態(興味や関心、発達の状況など)について研究しながら、実際に環境の構成を行い、その結果について考察する。 ・幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。 ・園外保育の下見、指導案の作成、指導の実際などを通して地域環境を取り込んだ保育実践の展開や留意事項、危機管理について理解する。
幼児とのかかわり(指導の実際)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員の保育の実際について観察し、保育後のカンファレンスに参加する。 ・自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の実態(興味や関心、発達の状況など)についての読み取りと、実際の指導、幼児の反応や活動を相互に関係づけながら省察する。 ・自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。

保育評価と省察	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員の保育の記録をとり、教師の意図や幼児との応答の様子、幼児の活動の変化について考察する。 ・幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の保育の記録をとり、環境の構成、教師の意図、幼児との応答の様子、幼児の活動の変化についてディスカッションし考察する。 ・幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。
学級経営と学級事務の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員より学級の実態や学級経営方針について説明を受け、それについてのディスカッションを行う。 ・学級事務についての考え方について説明を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員と共に学級事務にかかわりながら実務を体験する。 ・保健・安全指導について養護教諭並びに担任から講話を受ける。 ・人権教育について講話を受け、ディスカッションの中で課題を意識化させる。 ・家庭との連携について講話を受け、幼児を取り巻く諸環境や保育実践の背景について理解する。
自己評価観点の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題をもって保育観察及び幼児の観察ができたか。 ・保育観察、講話、ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。 ・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲、態度であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題をもって保育ができたか。 ・一人一人の幼児についてどのように理解が進んだか。 ・保育観察、講話、ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。 ・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲、態度であったか。

【分析結果と根拠理由】

今年度も、幼稚園における幼児との直接的なかかわりの過程をとおして、指導教員のもと教職の体験を積み、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施した。今年度の実習生は、保育に対する思いがとても強く、子どもに向き合う姿勢・教材研究・保育後の反省や記録等、全てにおいて一生懸命取り組むことができていた。実習の質に伴って教職員の指導もより高い実践的な能力や研究態度を目指すことができた。子どもとともに生きるという基本事項についての気づきや課題の明確化がそれぞれに図れた実習となった。

また、研究保育、評価保育等、大学から担当教員が園に来てくださり、実習を観ての指導も頂いている。大学側からの意見や質問もあつたり、激励にもなつたりと実習の充実に繋がっている。

教育実習とは別に、幼年発達支援コースとの自然プロジェクト（フレンドシップ事業による）のボランティアとして学生が保育参加する中で、より幼児理解の深まりや実践力の向上が図られ、実習にもよい影響が感じられる。

保護者アンケートの自由記述に次のような記述があり、保護者からも多くの支持を得た実習であった。

資料 1－③ 平成25年度幼稚園評価アンケート結果報告書（一部抜粋）

教育実習生のお子様へのかかわりで気付いたことをあげてください

「一生懸命、熱意と愛情をもって一人一人の子どもと真剣に向かい合ってくれたことに感謝している」「子どもの目線に立ってかかわってくれた」「とても優しく接してくれた」「生き生きとした実習生の姿は、子どもにとってよい影響を与えてくれた」「先生とは違った身近な存在のお兄さんお姉さんだった」「言葉遣いも適切だった」「緊張した表情が新鮮で好感がもてた」「子どもたちと一緒に遊んだり、熱心に子どもの話を聞いてくれたりして短期間ながら積極的にかかわっていただいた」「短い期間にもかかわらず子どもときちんと

向き合って信頼関係を築いていた」「実習の後でも、園外保育や幼稚園の行事で会うことができうれしそうだった」「とても誠実に対応してくれた」などの記述があった。

別添資料 1-③ 平成25年度幼稚園評価アンケート結果報告書

(2) 優れた点・改善を要する点

【優れた点】

- ・ふれあい実習、観察実習の実施、ボランティアでの保育参加により教育実習に参加する前に、実際に園や子どもの様子を見ることで教育実習のスタートがスムーズにできている。受け入れる本園としても教育実習生一人一人の良さ等を事前に把握できることにより、実習期間中の指導・対応もしやすい。
- ・今年度は、教育実習生をできる限りまとめて配属した。実習生の希望も考慮し、3学級8人の実習生を割り振り配属した。そのことによって、教員の指導も細かくできるようになった。保育の反省・話し合い・教材研究・指導案立案も2～3人で行うのでより深まりのある実習となった。
- ・教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身につけようと一生懸命実習に取り組み子どもとともに生きるという基本事項についての気づきや課題の明確化がそれぞれに図られ、多くの成果が得られた実習となった。
- ・配属された年限での指導が深まるように配慮し、領域研究の中に各学級での教材研究の実践が図れるようにした。(6-① 実地教育計画表参照) その結果、1日の保育を振り返り反省する時間や、翌日以降の保育計画立案にあてる時間が十分に確保され、保育指導案の内容がとても良くなった。
- ・大学の教員及び附属学校校長で構成されている実地教育専門部会にて、プロジェクトとともに充実した教育実習の在り方について話し合い、大学と附属校との連携を図っている。

【改善を要する点】

- ・保育指導案・資料作成等について、実習生が効率的に作成できるような環境づくりが必要である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目7 センターの役割

(1) 観点ごとの分析

観点7-1 幼児教育関係者への研修支援、教員派遣等の状況

【観点到係る状況】

本園は研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっている。

今年度の具体的な研修支援、教員派遣、研修会会場提供としては、次のとおりである。

- ・全幼研徳島支部の事務局を本園に置き支部の研修を企画運営（学習会、総会、理事会）
- ・合同研究会の開催

- ・平成25年度幼児教育研究会の開催（538名の参加）
- ・徳島県教育委員会主催の研修会への講師派遣（教頭2件・辻本教諭1件・杉山教諭1件）
- ・県新規採用研修・新任園長研修会における指導
- ・平成25年度幼稚園新規採用教諭研修・保育技術協議会等，県教育委員会主催の研修会への講師派遣
- ・教員の県内外研修会への講演講師の派遣（鳥取県教育委員会・京都市教育委員会・倉敷市教育委員会・大阪府富田林市・兵庫県姫路市・伊丹市・相生市，赤穂市・神崎郡・香川県三豊市・徳島県徳島市・阿南市・美馬市・美馬郡・板野郡・大阪大谷大学主催「幼児期の科学教育国内研究シンポジウム」など22件。）
- ・国立教育研究所プロジェクト研究「子どもたちの論理的な思考の育成にかかわる調査研究」協力（教頭）
- ・文部科学省 幼保連携型認定こども園保育要領の策定等に関する調査研究協力（教頭）
- ・他附属幼稚園からの研修受け入れ並びに実地指導
（東京学芸大学附属幼稚園 主幹教諭1名 1月20・21日）
（長崎大学教育学部附属幼稚園 教諭1名 1月30日）

【分析結果と根拠理由】

以上のとおり，幼児教育関係者への研修支援および教員の派遣はできている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

県内外より講演依頼があり，幼稚園教育についてや教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分果たしている。

【改善を要する点】

講師として派遣することで，園内の教員が不在となるため，他の教員への負担が大きくなる。また講師となった職員自身も，その分の仕事を消化するには超過勤務とならざるを得ない状況である。

観点7-2 地域住民への貢献

【観点到に係る状況】

本園は奉仕幼稚園としての使命をもち，専門性を発揮し，次のような地域の幼児教育センター的役割を果たしている。

- ・オープンスクールの実施。参加者174人（11月2日）
- ・教育講演会の開催。今年度は，徳島文理大学人間生活学部心理学科長 山下景子先生を講師に「夢みる力を育む」と題した講演会を開催し，約70名の参加者を得た。（9月6日）
- ・つるぎ町立貞光幼稚園保護者会において子育て講演会講師として講演。
（1月30日 教頭）
- ・徳島市幼児教育検討会議に教頭が副議長として参加。徳島市の幼児教育振興に協力。
- ・その他，園長並びに教頭が，徳島県教育委員会や徳島県幼稚園教育研究協議会主催の研修会における講師の紹介や研究指導を行うとともに，徳島市教育委員会，園長会の相談に専門的見識を提供して貢献している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

幼稚園教育についての専門的見識や実践事例，先端的な情報を広める地域の子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割を十分果たしている。

【改善を要する点】

入園選考を実施していることもあり，多くの方を対象に園を開放することについて，一定の条件を設けざるを得ない。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し，4段階評価中の「 A 十分達成されている」と判断する。

Ⅲ 自己評価別添根拠資料一覧

評価項目	資料番号	資料名
1	1-①	平成25年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	1-②	平成25年度幼児教育研究会アンケート集計結果
	1-③	平成25年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	4-①	研究紀要第47集
2	2-①	ほけんだより 10月号 (2013.10.1発行)
	2-②	平成25年度安全管理計画－危機管理マニュアル－
4	4-①	研究紀要第47集「幼小接続の教育課程開発－遊誘財が引き出す科学的思考－」(2013.11.16発行)
	4-②	遊誘財リーフレットNo.4 (2013.11.11発行)
5	1-③	平成25年度幼稚園評価アンケート結果報告書